

目指せ花園 熱戦幕開け 秋田、秋田南を完封



【秋田南-秋田】前半32分、秋田のP
R鈴木が走り込んでトライを決める

第97回全国高校ラグビー大会県予選が13日、秋田市のあきぎんスタジアムで開幕した。開会式に続いて1回戦

全国高校
ラグビー
県予選
〈第1日〉

▽1回戦

秋田 69(45)0 秋田南
 ▼30分ハーフ▽キックオフ秋
 田南▽レフェリー石木田
 秋田 75045 42024
 TGP前 TGP後 計反
 秋田南 00000 00000 05

攻守で主導権を握った秋田が計11トライを奪い、秋田南を圧倒した。

木間山皆元藤木田高 澤村田澤藤
 鈴木高草木佐佐鎌大 島 木中成松伊
 【秋田南】FW 藤原洋井旗翔木石木津
 雄辺村嶋上橋藤原藤原藤原
 伊川三村高菅伊夏白伊船立佐深
 ▼交代Ⅱ【秋】田中(草菅)、
 吉谷(松澤)

1試合を行い、秋田が秋田南に69-0で圧勝した。きょう14日は同スタジアムで2回戦2試合を行う。

(高橋秀明)

秋田は前半6分、敵陣ゴール前のラックからL0草菅が走り込んで先制トライ。11分にはゴール前のラインアウトからモールで押し込みNO8鎌田がトライを決めるなど、45-0で折り返した。後半も攻撃の手を緩めず、19分に相手スクラムからターンオーバーして鎌田がトライするなどFWの圧力とBKの走力で相手を上回った。

秋田南は最後まで秋田の防御網を突破できなかった。

打倒秋工、雪辱に燃える

○：昨年準優勝の秋田は今大会、先発メンバーに1年



力強く宣誓する秋田工の児玉主将

聖地への思い込め宣誓

○：開会式で、昨年優勝した秋田工の児玉樹主将(3年)が選手宣誓を務めた。「共に練習してきた仲間とフーサイドの笛が鳴るまで、力の限り楯円(だえん)球を追い掛ける」と誓った。

宣誓文は1週間ほど前に自分で考えたという。「チームの全員が目指している聖地花園への思いや、支えてくれた指導者や保護者への感謝の気持ちを込めた」

きょうの試合

▽2回戦

男鹿工(13:00) 能代工
 大館桂桜(14:30) 金足農

生5人、2年生6人が並ぶ若い布陣で臨んでいる。1回戦は秋田南に圧勝したが、佐藤栄幸監督は「判断ミスを3年生がカバーして組織力を高めなければ」と厳しかった。

CTB中村崇太主将(3年)は「接点」を課題に挙げた。「ディフェンスで相手にタックルをする際、受け身に回って食い込まれた」と、前に出る気持ちが足りなかったことを反省した。

2回戦の相手は昨年の決勝で戦った秋田工。佐藤監督は「組織力と集中力を高めて序盤から全力で勝負させたい。3年生が先導して下級生の力を引き出してほしい」と期待する。昨年の決勝を経験した

プレーとは勝手が違ったよう「ものすごく緊張した」と苦笑。試合については「連覇への重圧はあるが、県大会で勝たなければならぬ」と強い思いを口にした。

昨年の全国大会では、Bシードながら初戦(2回戦)で報徳学園(兵庫)に敗れた。「再び花園で戦い、昨年の悔しさを晴らしたい。士気を高め、体を張ったプレーでチームに貢献したい」と表情を引き締めた。

かせず

に屈する

と四球で一死一、二塁としたが、併殺で先制機を逸した。その後も毎回走者を出したが五、六、八回と併殺で好機を逃し、一回に藤井の適時打、七回に押し出しで1点ずつ返すにとどまった。主戦佐々木

験は序盤、甘く入った球を痛打された。花巻東はピンチを併殺で切り抜ける堅守と、6犠打の手堅い攻めでリズムに乗った。主導権握られ打ち急ぐ

○：角館は毎回走者を出したが、得点したのは二、七回の2度だった。10四死球をもらいながら4併殺と拙攻が響いた。

一回裏一死一、二塁を三ゴロ併殺で逃し、直後の二回表に3点を先行されて主導権を握られた。二回裏に1点を返

第97回全国高校ラグビー大会県予選第2日は14日、秋田市のおきぎんスタジアムで2回戦2試合を行った。男鹿工が76-10で能代工に圧勝、金足

全国高校ラグビー
県予選
〈第2日〉

農は72-5で大館桂桜に快勝し、それぞれ4強入りを決めた。きょう15日は同スタジアムで2回戦残り2試合を行う。
(高橋秀明)

男鹿工、能工に大勝

▽2回戦

男鹿工 76 (54)22-10 10 能代工

藤川田田松井谷門東玉谷田田田谷
坂
能代工 今菊長伊見金井謙藤大
藤田拓木間谷木田藤藤谷田藤塚
浦
武原三鈴下納佐安齊安工熊沖佐飯
▽交代Ⅱ【男】三浦翼(下間) 【能】及川(戸松)



▽30分ハーフ▽キックオフⅡ男鹿工▽レフリーⅡ池田 能代工20010 0000 109 TGP前 TGP後 計反 男鹿工41022 87054 765

男鹿工がモールで力強さを発揮し、12トライを奪って能代工に大勝した。

男鹿工は10-10の前半28分、敵陣ゴール前のモールをそのまま押し込みNO8安田が勝ち越しのトライ。32分に

金足農、桂桜を圧倒

▽2回戦

金足農 72 (41)31-05 大館桂桜

▽30分ハーフ▽キックオフⅡ金足農▽レフリーⅡ伊東 金足農53031 73041 724 TGP前 TGP後 計反 桂桜1005 0000 57

金足農がBKの走力を生かして12トライを奪え、大館桂桜を圧倒した。

後の11分にはWTB曾我が勝ち越しトライを決め、31-5で折り返した。後半も展開ラグビーを仕掛けてBK陣が相手の防御網を次々と突破。WTB伊藤薫、CTB伊藤空らが7トライを奪ってリードを広げた。

大館桂桜は鋭いタックルで踏ん張ったが、金足農のBK陣を止め切れなかった。チームプレーに課題残す

田益藤翼勝永通浦龍部我空川薫佳
藤部木崎藤山
吉定進佐阿鈴三岩渡曾伊中伊皇
【金足農】FW 桂桜
馬村田嶋藤邊部時藤橋川部嶋石良
相中山吉齋渡向目近三石安中武奈
▽交代Ⅱ【桂】高谷(石川)、
宮崎(自勝)、北嶋(吉田)、
田仲(佐藤翼)、澤田石(北嶋)

○：金足農は後半、一方的に攻めて快勝したものの、S O渡部敦也主将(3年)は個人技で上回っただけ。思うような組織プレーができなかった」と表情は硬いままだった。

準決勝に向けて渡部主将は「連係プレーからのトライを増やすため、チーム内でコミュニケーションの取り方を再確認する」と修正を誓った。

きょうの試合

▽2回戦

秋田工(13・00) 秋田大館鳳鳴(14・30) 秋田中央

ツシユで自分たちのペースをつかまなければいけない」と選手を一喝した。

近藤監督は「緊張していたのかFWが接点で勝つことができず、慌てたのだろう。普段ならトライを決めれば落ち着くはずだが」と、花園予選ならではの初戦の難しさを語った。CTB沖田瑠星主将(3年)は「立ち上がりは緊張していた。次のプレーをどうするか判断できなくなっていた。ディフェンスもゲインされ、歯車がかみ合わなかった」と振り返った。

落ち着きを取り戻した後半は、接点で勝利、重圧をかけて続けてペースをつかんだ。FWとBKが一体となった攻撃で圧勝したが、沖田主将は「開始直後から練習の成果を出さなければ次は勝てない。ミスをなくし、強気で前に出たい」と準決勝を見据えた。

鹿角サマージャンプ

決勝は秋田工VS秋田中央

第97回全国高校ラグビー大会県予選第4日は19日、秋田市のあきぎんスタジアムで準決勝を行った。秋田工は圧倒的な攻撃力で金足農に80-3で大勝、秋田中

全国高校ラグビー
県予選

(第4日)

中央FW陣が優位に立って男鹿工に68-21で快勝した。全国大会出場を懸けた決勝は、29日午後2時35分から同スタジアムで行う。
(高橋秀明)

29日激突

▽準決勝

秋田中央	68	21	14	7	男鹿工
△30分ハーフ	△キックオフ	△男鹿工	△レフェリー	八木	
中央	76	0	47	33	0
TGP前	TGP後	計反	計正		
男鹿工	11	0	7	22	0
10	7	14	21	7	

セットプレーで優位に立つ

秋田中央 男鹿工に快勝

秋田中央が、10トライを決めて男鹿工に快勝した。秋田中央は前半2分、ラックからCTB下間が先制トライ。7分にもラックを起点にHO浮田が左中間にトライを決めて主導権を握った。28、30分にはBKが独走トライを決めた。

- ▽秋田中央
- FW 藤田拓木、木田藤、藤谷田、藤松
 - HB 遠藤三、三原、高菅、淡佐、大土、下、佐吉
 - TB 藤原、藤
 - FB 藤原、藤
- ▽男鹿工
- FW 松島、佐々木、吉
 - HB 飯塚、小松、三浦、下間
 - TB 吉田、淡路、小玉、佐藤
 - FB 柏原、三浦、納谷、土橋、宮、遠所、石井、菅原、久、船木、真(下間)、豊澤(浮田)

ポイント

秋田中央は課題だった立ち上がりにはFW、BKが共に体を張ったプレーを見せ、主導権を握った。

大館鳳鳴との初戦は、BKの連係が悪くパスミスが目立ち、最初のトライを奪うまで7分を要した。その教訓を生かしてボールを確実につなぎ、この日は前半7分までに2トライを決めて勢いづいた。

男鹿工が鋭いタックルで止めにきたものの、秋田中央の古谷和義監督は「ひるまずに前へ向かう気持ちの強さが見えた」と選手の成長を喜んだ。セットプレーの安定感も増し、押し強いFWとスピードのあるBKがバランスよく攻めた。古谷監督は「いい展開だった。特にFWの頑張りが大きかった」と及第点を与えた。

体張り序盤から主導権

点。HO浮田圭都主将(3年)は「ラックからモールを組まれて押し込まれた。そうさせないように、しっかり修正したい」と表情を引き締めた。



【男鹿工一秋田中央】前半30分、秋田中央のWTB大嶋が独走してトライを決める

決勝の相手は秋田工。6月の全真総体決勝と東北高校選手権1部決勝で競い合っていた。いずれも小差で敗れた。浮田主将は「東北選手権では勝ち越した後逆転された。秋田工との差は詰まっている。苦手意識はない。最後に秋田工に勝って自分たちが花園へ行く」と鋭い目で誓った。

29日の試合

▽決勝
秋田工(14・35) 秋田中央

秋田工 攻守で金農圧倒

▽準決勝

秋田工	80	26	10	3	金足農
△30分ハーフ	△キックオフ	△金足農	△レフェリー	長山	
秋田工	0	0	13	0	0
TGP前	TGP後	計反	計正		
秋田工	4	3	0	26	8
7	0	54	80	8	

秋田工はFWとBKが一体となり、攻守で金足農を圧倒した。

秋田工は前半2分、敵陣ゴール前でCTB児玉が抜け出し先制トライ。さらにBK陣が14分までに連続で3トライを追加した。後半はモールやスクラムで相手を崩すFWの強さが際立った。ボールを受けたBK陣が相手の防御網を次々と突破して8トライを重ね、突き放した。

金足農は前半にPGを決めたが、得意のオープン展開を封じられ、トライを奪えなかった。

想定外の展開、一時停滞

〇…2連覇を狙う秋田工は、危なげない試合運びで決勝進出を決めた。CTB児玉樹主将(3年)のトライを皮切りに、前半14分までに26-0とリードを広げる好スタートを切った。



【秋田工一金足農】後半17分、秋田工のナンバー8高橋がトライを決める

伊東真吾監督は「決勝の前に課題が見つかった良かった。FWで圧倒する戦いを再確認したい」と決勝への意気込みを語り、児玉主将は「どんな攻撃を仕掛けられても対処できるように、決勝までの時間を有効活用したい」と話した。

全国高校ラグビー県予選

攻守バランス良好

BK陣にスピード

秋田工

秋田中央

両校の決勝での顔合わせは2年ぶり。過去10年では8度対戦し4勝4敗で五分。秋田工はFW、BKともに個々の能力が高く、攻守のバランス

W陣とHB団の攻防で上回れるかが勝敗の鍵を握りそう。秋田工のFWはスクラムやモールが強力で、セットプレーに安定感がある。突進力があるナンバー8高橋泰地(3年)は今大会5トライを決めている。BK陣はCTB児玉樹(同)の縦突破が大きな武器。鋭い切り込みが特徴のWTB下山輝(同)は今大会9トライと決定力が光る。

秋田中央のFWも秋田工にひけを取らない。HO浮田圭都(3年)らが積極的に前に出る守備でボールを奪い、攻撃のリズムをつくる。トライゲッターのCTB下間颯太(同)ら走力の高いBK陣へいいボールを供給できれば、速いパス回しからペースをつかめそう。両校は6月の全県総体決勝と東北高校選手権1部決勝で対戦し、ともに秋田工が接戦を制した。花園を懸けた今回は、立ち上がりの激しい主導権争いが見どころとなりそう。(高橋秀明)

全国大会見据え強化

伊東真吾監督 FW戦でどれだけ優位に立てるかがポイントになる。BKにいい形でボールを出したい。春から全国大会を見据えて強化してきた。攻守ともに圧倒できる力は付けている。

セットプレーで圧倒

児玉樹主将 花園で全国の強豪を倒すために練習を続けてきた。秋田中央に力があることは分かっているが、自分たちも進化している。FWがセットプレーで圧倒し、BKの展開力で得点を重ねたい。

FW勝負で主導権を

古谷和義監督 FWで勝負し主導権を握りたい。スピードのあるBKにいかにもいいボールを出せるかがポイントになる。秋田工の中心選手を止めるため、体を張った守備でしつこく食らい付きたい。

モールの強さに自信

浮田圭都主将 秋田工の中心選手を抑えて、序盤からペースをつかみたい。FWの強みはモール。自信を持って押し込む。BKは走り負けない自信がある。最後に勝って花園への切符をつかみたい。

花園懸けあす決勝

第97回全国高校ラグビー大会県予選はあす29日、秋田市のあきぎんスタジアムで秋田工-秋田中央の決勝を行う。12月27日に東大阪市の花園ラグビー場で開幕する全国大会の出場権を懸け、激しい戦いになりそうだ。キックオフは午後2時35分。



秋田工



秋田中央



秋田工連覇 花園へ

中央破り58度目頂点

第97回全国高校ラグビー大会県予選最終日は29日、秋田市のあきぎんスタジアムで決勝を行い、秋田工が36-0で秋田中央を破り、2年連続58度目の優勝、67度目の全国大会出場を決めた。秋田

全国高校ラグビー 県予選

〈最終日〉

工はFW戦で優位に立ち、6トライを奪って秋田中央を完封した。秋田工は12月27日から来年1月8日まで東大市の花園ラグビー場で行われる全国大会に出場する。



【秋田工—秋田中央】後半32分、秋田工のSH柴田がトライを決め34-0とする

▽決勝

秋田工 36 (24)12-0 秋田中央

中央 0000 0000 003

秋田工 21012 42024 366

▽30分ハーフ▽キックオフ 秋田工▽レフ エリー 菊池

秋田工がFW戦で秋田中央を圧倒し、BKが確実にトライを決めた。

攻守とも「進化」し完封

2年連続58度目の優勝 秋田工

「完璧な試合だった」。伊東真吾監督が開口一番に話したように、一方的に攻め続けて地方の違いを見せつけた。FW戦で相手を大きく上回り、ボールの供給を受けたBK陣が雨でぬかるむグラウンドをもともせず駆け抜けた。ノーサイドの笛が鳴ると、選手は肩を抱き合って2

栄光

年連続の花園出場を喜び合った。点差を広げて「0-0だぞ」と声を掛け合って攻撃の手を緩めなかつた。秋田中央とは6月の全県高校総体決勝と、東北高校選手権1部決勝で対戦。いずれも競り勝ったが、東北高校選手権では後半に一時逆転された。その反省から伊東監督は「常に無得点の状態を1トライを奪うことを意識させた」。

勝敗を分けるポイントのFW戦でスクラム、モールともに強さを発揮し、BKにいい形でボールを出した。CTB児玉樹主将(3年)は「春に差を詰められ、危機感を持って夏の菅平合宿などで強化してきた。その成果を雨の中で出せた」と語った。ディフェンスの成長も顕著で、突破を試みる相手のトライゲッターCTB下間颯太(3年)を徹底的にマークし止めた。

今年のチームスローガンは「進化」。伊東監督は「全国大会で勝つことを目標に強化してきた。春はチームづくりの途上で、アタックの連係が未完成で接戦になった」と話し、「今大会を通じて連係が形となり、花が開いた」とたたえた。昨年の全国大会はBシードながら初戦の2回戦で敗退。その悔しさを経験した児玉主将は「再び花園でプレーしたいという思いでチームを引っ張ってきた。今年はチームを日本一に導く」と力強く誓った。

(高橋秀明)

所田浦本洋田久達路木嶋橋間亮尾
遠浮三坂佐高菅佐佐大土下佐吉
【秋田工】FW HB TB F B
秀本島間森川優橋田山玉大秀谷
藤原藤原藤原藤原藤原藤原藤原
佐松小波金森菅高柴土下児佐佐淡
▽交代【工】落合佐藤秀磨

アウトからモールを押し込み、LO金森が2トライを決めた。後半は敵陣ゴール前のモールからCTB児玉につないでトライを奪い、さらに3トライを追加して突き放した。ディフェンスでも低く鋭いタックルを徹底して相手攻撃陣に突破を許さなかった。秋田中央は相手ディフェンスの重圧を受けてパスマスが

増え、トライを奪えなかった。堅い守り突破できず
○：秋田中央は相手の堅いディフェンスに苦しめられ、攻撃を継続できなかった。最後までトライを奪えず、古谷和義監督は「完敗。秋田工が強かった」と肩を落とした。立ち上がりにはラインアウトからのモールでゴールライン

2年連続58度目の優勝を飾った秋田工



手前まで攻め込んだが、秋田工の低く突き刺さるようなタックルに阻まれ、先制機を逃した。

その後はCTB下間颯太(3年)が果敢に突破を図ったが、マークが厳しく不発に終わった。下間は「スピードを武器に勝負を挑んだが及ばなかった」とうなだれた。要所でミスも出た。雨でぬかるんだフィールドに足を取られ、パスやキャッチの精度を欠き、ピンチを招いた。HO浮田圭都主将(3年)は「自分たちの攻撃の時間をつくれなかった」と振り返った。



秋田工に敗れ、悔しさをにじませる秋田中央の選手

古谷監督は「選手たちは成長を遂げて、よく戦ってくれた。誇りに思う」と話す一方、「勝たせたかった」と悔しさをにじませた。(伊藤正孝)

立沢、河崎が2種目V

全日本新体操最終日

新体操の全日本選手権最終日は29日、千葉ポートアリーナで行われ、女子で個人種目別は立沢孝菜(イオン)が2種目で日本一に輝き、前日の個人総合と合わせて3冠を達成した。クラブで15・650点、リボンで14・700点を出した。河崎羽珠愛(イオン)がフープで15・250点、ボールで15・950点をマークし、2種目制覇となった。団体種目別はフープで国士舘大、ボール・ロープで日女体

卓球女子W杯

平野が4強入り

石川は1回戦敗退
【マークカム(カナダ)共同】卓球の女子ワールドカップ(W杯)は28日、カナダのマークカムでシングルスが行われ、昨年の大会で日本勢初優